

## 平成29年度第4回 旭市学校のあり方検討委員会会議録

1 期 日 平成29年8月8日（火） 開会 午後6時30分  
閉会 午後8時00分

2 場 所 海上公民館1階第一研修室

### 3 出席者

会	長	伊藤	啓子
副	長	齊藤	勝弘
委	員	岩井	憲一
委	員	平野	一男
委	員	加瀬	栄一
委	員	嶋田	太郎 <small>左エ門</small>
委	員	林	仁志
委	員	高野	英之
委	員	山角	健一
委	員	向後	依明
委	員	富田	貴子
委	員	向後	和保
委	員	小沼	加代

教 育 長	彗田	哲雄
庶 務 課 長	栗田	茂
学 校 教 育 課 長	佐瀬	史恵
庶 務 課 副 課 長	多田	英子
学 校 教 育 課 副 課 長	仲條	義治
学 校 教 育 課 主 幹	宮内	智明
学 校 教 育 課 主 幹	鈴木	益実
庶 務 課 施 設 班 副 主 幹	来栖	慎一
庶 務 課 施 設 班 主 査	亘	隆男

・庶務課亘主査

それでは時間となりましたので、始めさせていただきます。

本日は、お忙しい中、お集りいただき、ありがとうございます。会議に入る前に、本日配布の資料についてご説明させていただきます。

まず、今年4月より、委員さんがお一人変わられましたので、委員名簿と座席表をご用意させていただきました。また、小学校と中学校の学区図を用意しましたので、会議資料の2ページ、3ページと差し替えをお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

#### 4 開 会

・伊藤会長

皆さんこんばんは。本日はご多用な中、お集まりいただきありがとうございます。それでは、ただ今より第4回旭市学校のあり方検討委員会を開催させていただきます。開会にあたり、教育長よりご挨拶をお願いします。

#### 5 教育長あいさつ

皆さんこんばんは。本日は大変お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。今年度、開催が遅くなりまして、本日が本年度最初の学校のあり方検討委員会となりました。皆様方、大変気をもんだことと思われまふ。大変申し訳ございません。

さて、前回の検討委員会では、小中学校の適正規模について、いろいろとご意見をいただき一定数の学校規模を確保することが重要であることから具体的に旭市としての適正規模については、小中学校ともに12学級～18学級が望ましい学級数ということで合意をいただいたところでございます。

そこで、本日の検討事項は、適正配置について、お考えをいただくと共に、資料にもありますが、パワーポイントも用意してございますので、まず学校の配置状況、そして通学距離、学校数のシミュレーション、更には近隣自治体の考え方などを紹介させていただきますので、それを参考にさせていただきます。活発なご意見をいただければと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。そして、本市では、即、次の段階ということではなく、まず今日は、旭市の現状を見据えた中で、具体的な統廃合というよりも、子どもたちの健全育成のためのより良い教育環境を軸に、やがて学校再編をすると想定した時、どんな状況となったら進めるべきなのか、あるいは、進めなければいけないのか。またその時、どんな方法が良いのか、皆様方の丁寧な話し合いを、今こそ余裕のある時に、お願いできたらと考えているところであります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、次の第5回、第6回を見通して、皆様方の活発なご意見をいただきたいと思ひます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

あいさつは以上となりますが、前回、皆様方からのご質問の中にありまし

たことについて、少し触れておきたいので、お耳を拝借したいと思います。確認の意味もありますが、通学区域について、お話をさせていただきます。通学区域については、市町村の設置する小中学校が2校以上ある時は、就学予定者に就学すべき学校の指定を教育委員会はしなければならないという定めになっております。ただし、通学区域についての法令上の定めは、特にはございません。現状ではその指定が、勝手に都合のよいように決められたり、不公平感を与えたりすることがないように、道路・河川等の地理的状況、地域社会が創られてきた歴史的経緯、更には住民感情等、その実態に即して、現在では設定されているものですので、そのことをお汲みとりいただき、これからの会議に臨んでいただければと思います。それでは、よろしく願いいたします。

## 6. 新任紹介及び挨拶

・伊藤会長

ありがとうございました。それでは、次に新委員の方々に自己紹介とご挨拶をお願いしたいと思います。林仁志委員、栗田庶務課長、佐瀬学校教育課長の順でお願いします。

(新任委員 挨拶)

## 7. 検討事項

・伊藤会長

ありがとうございました。それでは、皆様、改めてどうぞよろしくお願いしたいと思います。

では、検討事項についての話し合いに入ります。先ほどからお話がありますように、昨年度の2月16日に開催されました前回の第3回の会議では適正な学校規模について、皆様からさまざまな意見をいただいて小学校、中学校ともに12学級～18学級が望ましい学級数ではないかという結論に達しました。本日はその検討結果に基づいて、旭市の小中学校の適正配置について考えていきたいと思っております。次第をご覧ください。第4回の今回は、小中学校の適正配置について4つの事項に分けて皆さんで検討いただくこととなります。始めに事務局からの説明を聞きまして、その後、意見交換をしていただく予定です。その後に、先ほど教育長からもお話がありましたように、子どもたちの望ましい教育環境を考えたときに、学校がどういう状況になったら、またどのような時期になったら学校再編を進めるべきなのか考えていきたいと思っております。そして通学時間や通学手段なども踏まえながら皆さんからご意見をいただければと思っております。

では検討事項の確認をいたします。

(1) にアイウエと書かれています。アは小中学校の配置状況、通学距離等に

ついて、イは望ましい学校数のシミュレーションについて、ウは近隣自治体の適正配置の考え方について、エは近隣自治体の学校再編にかかる事例の紹介です。それでは検討事項のア小中学校の配置状況、通学距離等について、事務局からお願いします。

- ・学校教育課鈴木主幹（管理主事）

（小中学校の配置状況、通学距離等について、パワーポイントにて説明）

まず旭市の小学校の配置についてですが、ご覧のように学区により広さにももちろん差はありますが、おおむねバランス良く配置されているのではないかと思います。ここに全ての学区が半径4 km以内の円に収まっていますが、文科省から出ている通学距離の基準がこの4 km圏の円になります。これは直線距離ですので、実際は曲がりくねった通学路ですので、あくまで参考ということで、説明させていただきます。直線距離で見ると収まっている訳ですが、この円を動かしてみると、3つの円でほぼ全ての小学校が収まるようになります。市内の小学校を見てみると通学にバスを利用する児童は、中央小学校と飯岡小学校の一部に限られております。従って徒歩通学が可能な状況です。干潟地区の3校が、他の地区の学校と多少、離れているような印象を受けますが、そこから最も近い干潟小学校、共和小学校、滝郷小学校との間は、ご存知のように水田地帯となっており、人口的に見ると、非常に希薄なエリアになっております。ここに児童数を表示してみます。約半数の7校が100人～200人の間になると思います。中央小学校については、学区のほとんどが市街地及び住宅地であるため、児童数は726人で、市内唯一の大規模校となっております。配置的にはバランスがとれていますが、児童数で見ると、市中央部とその周辺部ではかなり大きな開きがあります。

続きまして、中学校区です。中学校についても全ての学校が適正とされる直線距離で見ると、半径6 kmで市内全域を網羅できる形となります。これについても、実際には通学路は直線ではありませんが、極端に学区が偏っていないことがおわかりいただけると思います。干潟中学校につきましては、学区がほぼ東西に長く広がっているため、他の学区に比べると居住地によっては、通学距離に大きな差が出ますが、自転車通学によりおおむね無理のない通学が可能となっています。海上中学校については、鶴巻地区の一部の生徒がJR線を利用しております。このように生徒数を見ると、第二中学校が799人の大規模校となっており、他の中学校と比べると大きな開きがあります。学校の配置に目を向けていただくと、第一中学校と第二中学校が極端に近い位置にあり、他の学校の配置と比べると、バランスを欠いていると見ることができます。また、すぐ近くにある第一中学校が今年196人で200人を切ってきました。こういったことから学校の配置の影響を受けていると考えられます。説明は以上となります。

・伊藤会長

ただ今、事務局より説明がありました。何か質問はございますか。小中学校の配置、通学距離がどうなっているかということについて説明いただきました。小学校が4 km以内、中学校が6 km以内に収まっているという説明でしたが、ご質問はございますか。この後でもかまいませんので、質問がございましたらお願いします。

では次にイの望ましい学校数のシミュレーションについて、事務局から説明をお願いします。

・庶務課亘主査

それでは、望ましい学校数のシミュレーションについてご説明します。前回会議において小学校及び中学校の望ましい学校規模について決めていただきました。そこで、現在把握できる平成34年度推計の児童生徒数と小中学校それぞれの望ましい学級数を用いて、必要となる学校数のシミュレーションをしてみました。それではお手元の資料の4ページをご覧ください。

まず小学校についてですが、望ましい学校規模は1学年2学級または3学級であるため、それぞれの場合で試算をしてみました。試算に用いた1学級の児童数については、学級編制基準及び学級編制の弾力的運用により38人及び35人を用い、前回の教職員アンケートで適正と感じる1学級の人数の結果を踏まえ、30人、25人、20人での試算も行いました。上段の表が1学年2学級とした場合の試算になります。例えば、38人で試算した場合、 $38人 \times 2学級 \times 6学年$ で1学校当り456人の児童が必要な児童数となります。平成34年度推計の全児童数が3,031人であるため、この必要な児童数456人で割り出すと、6.64校(6~7校)という必要な学校数が出ます。このように1学級の児童数を38人から20人までの各試算により算出した結果が、この表の必要な学校数の欄になります。38人の場合が6校~7校、35人の場合が7校~8校、30人の場合が8校~9校、25人の場合が10校~11校、20人の場合が12校~13校という結果となりました。さらに、ここで試算された必要な学校数が、実際の学級編制の弾力的運用による38人1学級に当てはめた場合に、想定した学級数になるかについても、試算を行いました。その試算結果が、表の右側の「左記の学校数を学級編制の弾力的運用(38人)に当てはめた場合」の欄になります。例えば、38人で試算した場合の必要な学校数は6校~7校となりますが、推計の児童数3,031人を6校で1校当り、1学年当りの児童数を割り出し、さらに学級編制の弾力的運用の38人1学級で学級数を出し直してみると、想定した2学級ではなく3学級となってしまいます。同様に7校~12校で試算した場合は、学級数は想定した2学級となります。また、必要な学校数を13校とした場合は、1学年の生徒数が38.85人となるため、試算上は38人+0.85人で2学級となりますが、単学級になる恐れのある学校

数であるため、必要な学校数とはしませんでした。このように、2つのパターンでの試算で、想定した2学級になる学校数が、表下※印で表示してあります。1学年2学級の場合は、必要な学校数は7校～12校となります。同様に、1学年3学級とした場合のシミュレーション結果が下段の表となります。この場合、想定した3学級となる学校数は、表下※印箇所になりますが、5校～6校という結果となります。次の5ページにおいて、このシミュレーション結果を取りまとめてご紹介します。

続いて、中学校のシミュレーションですが、6ページをご覧ください。

中学校においては、望ましい学校規模は1学年4学級～6学級でしたので、4学級、5学級、6学級の3通りで試算を行いました。生徒数は平成34年度推計の1,615人とし、試算に使用した1学級の生徒数は、学級編制の弾力的運用より38人試算、35人試算を行い、前回の教職員アンケートで、適正と感じる1学級の人数の結果を踏まえ、30人、25人での試算も行いました。まず、1学年4学級とした場合についてですが、小学校と同様に2つのパターンでの試算を行い、想定する4学級となる学校数を試算すると、結果としては、表下※印の4校とした場合のみ4学級となります。3校での試算の場合、5学級となってしまう、適正規模内ですが想定した4学級となりませんので、必要な学校数とはしませんでした。また5校とした場合は、3学級となり、適正規模未満となってしまいます。次に1学年5学級の場合ですが、結果としては、表下※印の、3校とした場合のみ5学級となります。2校、4校、5校の場合は想定した5学級とはならない結果となりました。次の7ページをご覧ください。1学年6学級とした場合ですが、試算の結果が表下※印の箇所になります。上記シミュレーション結果において、算出した必要な学校数2校～4校の中で、学級編制の弾力的運用により6学級となる学校数はありませんでした。2校とした場合は、1学年8学級となり、適正規模を超える規模となってしまいます。3校とした場合は1学年5学級となり、4校とした場合は1学年4学級で適正規模内ですが、6学級にはならない結果となりました。中学校のシミュレーション結果についても、小学校と同様、次の8ページに結果を取りまとめてご紹介します。望ましい学校数のシミュレーションについての説明は以上となります。

・伊藤会長

ありがとうございました。計算が複雑でわかりづらい点もあると思いますが何か質問ございますか。

・委員

この計算方法はどなたが決めたのか。

・庶務課亘主査

教育委員会で作成しました。

試算の根拠としては、学級編制基準の基準及び前回のアンケート結果での望ましいと感じる1学級の児童生徒数等を基に作成いたしました。

・委員

このシミュレーション結果は、現在の旭市での児童生徒数による試算ですよね。

・庶務課亘主査

平成34年度推計による児童生徒数に基づき試算を行っております。それより先については、考慮しておりません。

・委員

こういった試算については、計算上の数字は出るが、地域の住民の方々に回覧等で回したりしたら、大変なことになりますよね。

・庶務課亘主査

このシミュレーションについて、補足説明をさせていただきます。この試算については、あくまで適正配置について検討していく上での一つの参考になればと試算を行いました。この試算においては、全児童生徒数を全ての学校が同じ学級数、学校規模になるように割り出した学校数となりますので、現実には学校ごとに規模の違いもありますので、学級数も学校ごとで違ってくると思われます。

・伊藤会長

これは、前回会議において望ましい学級数を12学級～18学級と確認しましたので、これを適正規模とすれば、平成34年度推計において、小学校の場合、児童数の推計が3,031人となるため、個々の学校の現状については、ひとまず置いておいて、単純に旭市全体の児童生徒数を全ての学校が12学級～18学級の望ましいとする学校規模となるよう均して計算した場合は、こうなるという一つのシミュレーションということですよ。これで進めていくということではないですよ。

・庶務課亘主査

はい、そのとおりです。検討していく上での一つの参考例として捉えていただければと思います。

・伊藤会長

他にございますか。それでは次に進めさせていただきます。

検討事項のウ近隣自治体の適正配置の考え方について及びエ近隣自治体の学校再編にかかる事例紹介について、事務局より説明をお願いします。

・庶務課亘主査

(ウ近隣自治体の適正配置の考え方について説明)

(エ近隣自治体の学校再編にかかる事例紹介について説明)

・伊藤会長

ただ今、事務局から近隣自治体の事例を説明いただきましたが、更に詳しくお尋ねになりたいことがあれば、お願いします。いずれの自治体も望ましい学校規模としては12学級～18学級ですが、現実的には望ましい規模の持維が難しいことがわかる事例で、学校再編を考えるタイミングとしては、大きな柱として、小学校における複式学級、中学校における単学級化がポイントになっているようです。どこの自治体においても、長い時間をかけて進めてきたものであると感じました。銚子市、山武市、成田市、匝瑳市、香取市それぞれについて何かございますか。

・委員

確認したいこととして、旧山田町の中学校5校が1校に再編し校舎は、確か山田中学校の隣であったと聞いておりますが、まずその点を確認したいのと、東庄町では笹川小学校をそのまま使うと聞いているが、銚子はその位置的なものとして、学校をどこにということについては、なかなか明らかにされていなかったと思いますが、その辺のことについて、もしわかれば教えていただきたい。

・伊藤会長

統合後の学校の位置についてですね。山田地区の統合後の中学校の位置、銚子市の中学校の位置等についてですが、事務局いかがでしょう。

・庶務課亘主査

委員さんよりの質問に関してですが、現時点では把握しきれていませんので、次回確認がとれればご報告させていただきたいと思います。

・教育長

よろしいでしょうか。銚子の中学校が、今2校体制で動いております。第五中、第六中、第七中が、銚子第五中を使い動いているようです。ただ銚子中、第一中、第二中、第三中は一つになる予定となっているようですが、まだはっ



きりとは決まっていないようです。

・伊藤会長

銚子では元々 8 校あったものを第八中が銚子中に統合し 7 校になり、更に 2 校にするということです。その他はいかがでしょうか。今のところ無いようでしたら、また後でもかまいませんのでよろしくお願いします。

一通り事務局より説明がありましたので、次に委員の皆様から意見交換ということで、ご意見を伺っていきたいと思いますが、ご意見をいただく観点としましては、教育長よりお話がありましたように、子どもたちの望ましい教育環境を考えるということを前提として、旭市としては、学校がどういう状況となった時、またどういった時期に学校再編が必要なのかという点について、ご意見をいただければと思います。併せて、通学時間、通学手段なども踏まえながらご意見をお願いできれば幸いです。小学校、中学校それぞれについて時間を区切って申し訳ございませんが、お一人ずつ 3 分程度でお願いできればと思いますが、ここで休憩に入らせてもらい、休憩後、お一人ずつご意見をお願いしたいと思います。

(休憩)

・伊藤会長

それでは、会議を再開します。

これまで事務局より、いろいろと説明がありましたが、前回会議で望ましい学校規模とした 12 学級～18 学級、そこからシミュレーションをしてみた学校数からも、他の自治体よりは、まだゆとりがあるようですが、いずれはしていかなければならないものであると思いますので、それを踏まえ皆さんのお考えや要望など全てを含め、ご自由に意見をいただければと思います。では、お一人ずつ順にご意見をお願いします。

・委員

小学校については、望ましい子どもたちの健全育成ということで考えると、単学級は望ましくはない。しかしながら単学級であっても教員の力量によって素晴らしい学級ができるし、旭市の場合は距離的にバランスの取れている面もあるため、現状を大事にしていきたい。やはり地域とは、そこに住むお母さん方と子どもによって創られるもので、お祭りや催しについても小学校区単位で盛り上がって動いているという部分では、旭市ではちょうど良いバランスであると思う。また前回会議で、萬歳小学校についても人数が増えると聞いておりますので、しばらくの間、状況を見守る必要があると感じます。

中学校については、第一中学校と第二中学校が配置的に近い位置にあることですが、これは過去にも委員さんが P T A 会長の時代に大きな問題になり、豊

畑小学校を第一中学校学区へという働きがありましたが、回覧板で回したら大きな問題になるという話も先ほど出ましたが、地域があり、学校があるという部分もあるため、その辺を十分踏まえながら考えていかなければならないと思います。先ほどの説明にもありましたが、第一中学校と第二中学校があまりにも距離的に近いと同様に感じております。いずれにせよ大きな流れで将来的には旭市においても学校の統廃合については、免れない時代が来るのではないかと思います。

また、小規模校についてですが、椎柴小学校の例ですが、複式学級にならないように増置教員を置くことで、単学級とすることもできたということ報告して終わりにしたいと思います。

#### ・委員

それでは、私の意見として、まず前回話し合った12学級～18学級という規模を念頭に、15年、20年、30年先を見通した人口推移のデータ又は予測を基に、話し合っていく必要があるのではないかと思います。急ぐ必要はないと思いますが、やがて単学級が増えていく状況の中で、複数の学級があったほうが良いという点、そのことは大事にしていきたい。なぜそういうことを言うのかというと、例えば保育園とか幼稚園の現状を考えた時に、今地域にある保育園を通り越して違う保育園や幼稚園に通わせている家庭もかなり増えてきているということです。それは教育の内容なのか、質なのかは分かりませんが、今の保護者の皆さんが、どういったお考えでいるのか、ご意見を伺ってみたいと思いました。やがて統廃合をせざるを得ない状況が来るという予測であるならば、子どもにとっても、保護者の皆さんにとっても、地域の皆さんにとっても、魅力ある学校に再編していかなければならない。どこかに吸収されたとか、あちらの学校に取り込まれたという状況は、避けるべきだと思います。そういった点では、香取市の山田地区の例が、とても分かりやすい例であると思います。地域に根ざした学校ではあっても、どうしても小さくならざるを得ない状況でのことなので、再編で新しい学校を建てるという概念で、ものを見ていかなければ、難しくなっていくのではないかと思います。

そこで、まず中学校を思い切った形で再編してみるという案を出していく必要があるのではないかと思います。第一中学校と第二中学校は中央小学校の4階から見るとほぼ800mで同距離です。私は第二中学校の卒業生ではありますが、やはりこれは変えていく必要があると思います。私が入学した時は、第二中学校ができて、10年ぐらいの時でした。それを考えるとやはり、再編する必要があるならば、思い切った形で旭市の子どもたちや地域の人たち、保護者の皆さんにとっても魅力ある学校という形で再編をしていく必要があると思います。特に干潟地区の小学校3校は、100人を切ろうとする学校がほとんどになってきた。そこをどうしていったらいいのか。中学校と併せて一つの方向性を、その辺から見出していくことができるのではないかと思います。

・委員

私は地域の住民として、旭市の小学校については、ちょうど良い配置がされていると感じます。中学校については、子どもたちが通学しやすいようにもっと良い場所に持っていけばよいと思います。第一中学校と第二中学校はとても近い位置に配置されているが、位置的に旧旭の市街地にあるため、どうしてもそこに集中してくる。そして矢指地区、富浦地区は第一中学校へ行くことになり、人口的にどうしても第二中学校に集まってしまっている。飯岡中学校、海上中学校、第二中学校については、できたばかりの学校で統廃合することもできない。中学生は通学距離が少し遠くても自転車での通学ができるが、例えば豊畑小学校の1年生が中央小学校へ通うことを考えてみると、無理なように感じるし、そうすると、保護者が送り迎えをすることになる。それと小学校の周りに保育所があるから、通常はそこへ通うようになるが、私立幼稚園についても、私の地元地域でも人気があります。やはり旭市では中学校を中心に上手い方向に持っていき、小学校を中学校の近い場所にもっていくようにしてはどうかと思います。将来的には保護者が納得すれば、自分達はそれでいいように感じます。我々地域の人間にとっては、子どもたちの問題以前に地域自体が問題で、独身の者が多く、地域の役員のなり手も厳しい時代になっている。教育委員会で学校を建ててもらい、上手に持って行ってもらいたい。自分から見ても先ほどの学級編制についてですが、38人というが、少なければ少ないほうが、保護者はうれしいと思います。先生1人に10人ぐらいの生徒のほうが、子どもたちも一生懸命頑張るような気がするし、先生方の目が行き届く等の面もある。なるべく行政に頑張ってもらいたいと思いますので、よろしくをお願いします。

・委員

地域に根ざしている小学校の配置としては、よく配置されていると思います。現在は保護者の送迎が非常に増えている。小学生までは、送迎もまだよいと思うが、中学生になると部活動で夕方遅く、朝も早い場合があるため、中学校については、なるべく通学距離が遠くならない配置にしていきたい。小学校についても保護者の負担を少なくできるような配置にしていればよいと思う。統廃合に関しては、地域と保護者が納得するものであればよいと思います。

・委員

今回参加し、人数等の望ましい学校の規模など聞かせていただいて、本校に当てはめると、だいたい356人であり、360人に近い状況となっており、学級数についても12学級と特別支援学級であり、適正な大きさの学校であるのかなと感じました。本校と同じぐらいの規模の学校が、最終的にはいくつかできあがるということで、確かにいろいろな意味で、今の本校ぐらいの規模で

あれば活性化も図れ、1クラス30人ぐらいでいろいろな活動ができ、これが旭市全体で進められていけばよいとは思いましたが、ただこれをどのようにまとめていくのかという時に、近隣自治体の考え方の説明を聞いて、香取市や匝瑳市、成田市についても言えるが、喫緊の課題として、どこから解消していかなければならないのかと考えた時に、一番は複式学級で、本当に人数が少なくなってしまう状況を何とかしなければならぬというところからスタートし、その他のことも組み合わせ決めていっていると思うが、旭市は地域が良くまとまっており、そのあたりで将来考えていく時に、離れた学校を無理に組み合わせなくても、ちょうど良い感じがしています。小学校については良いと思うが、中学校については、いろいろと考えていかなければならない部分が出てきているようですが、いずれにしても適正な人数の中で教育を進めていくことがベストであるので、そのためには、教育委員会だけの考え、学校だけの考えだけでなく、地域の意見、保護者の意見を尊重し、納得のいく形で進めていただきたいと思います。そのためには、どうしていったらいいのか、これからも引き続き検討をしていかなければならないと思います。今回、適正配置の考え方について勉強させていただき、また違う角度からも考える機会になったと思っています。

#### ・委員

小学校については、とてもバランス良く配置されていると思います。将来的に、子どもたちの数がものすごく減ってしまった時に、統廃合は避けて通れないものだとは思いますが、小学校については、年齢の小さい子どもたちであるので、あまり遠くまで通わせることは、好ましくないと思います。

やはり自分の地域に学校がある方が保護者としても望ましいですし、香取市の山田地区のように、小学校を真ん中に1校という方法は、できれば避けてほしいと思います。あとは、もし将来的にかなり大掛かりな統廃合にまとめなければならぬとなれば、まとめられた小学校、中学校が魅力的であってほしいと思います。例えば1+1が2ではなく、1+1が、5にも10にもなるような学校になれば、廃校になった地区の人たちも納得できると思います。小学校は地元で1校ずつあってほしいですが、あまりにも子どもの人数が減ってしまった場合には、そういう魅力的な学校になるように統廃合をしていってほしいと思います。

中学校についてですが、今配置図を見ていますが、飯岡中学校と海上中学校は校舎を建て替えたばかりで、残りの中学校も適正に配置されており、まとめるといっても、旭の市街地の方に怒られるかもしれないが、第一中学校と第二中学校をまとめるくらいしかないと思われま。あとは生徒数の少ない干潟中学校をどこかにということになると思いますが、これも旧干潟町の住民の方々から何で干潟中学校地区だけなのかという話が出るであろうし、中学校も難しいのではと思います。小学校についても中学校についても、児

児童生徒数の減少によりやむなく統廃合する場合は、統廃合で一つになった学校をより魅力のある学校としてもらいたいです。どんなやり方をしても多少の苦情は出ると思いますが、新しくできた学校を魅力的にするということに重点を置いて考えた方が、子どもたちのためになるのではないかと思います。

#### ・委員

私も普通の保護者としての立場なので、まさに私の地元である多古町について言えば、中心街がごくわずかで、全体としてはとても広く、私が子どもの頃は、非常に小学校が多かった地域に住んでいたため、この統廃合の話が出た時に、親が反対し、私が小学校に在籍している間には統廃合はかないませんでした。大人の間では、いろいろと問題があってそう簡単にはいかなかったのだと思います。姪っ子の代になり、その頃70人を切っている学校が近くに3校あったため、その3校が1つになりました。新しい場所に新しい学校を建て、スクールバスで通うような形で通学し、近所のこどもは徒歩で通っていましたが、私の姪っ子はスクールバスで通っていました。今、いろいろ話し合いを行って、統廃合という結論となったとしても、現実にもうしていくためには、当事者である保護者の方との話し合いの場を持つような形を取り、そこで賛成されることが重要ですが、簡単には賛成されないと考えられるため、長い目で計画を立て、時間をかけて進めていく必要があると思われます。やはり子どもが年々減ってきていることは、毎年感じていることなのですが、とても難しいことであると思います。小学校については、学校が近くにあり、子どもたちが歩いて通えることが理想ですが、スクールバス等を出してもらえれば、地域の子どもたちみんなと一緒にバスで行き帰りできる機会にもなり、視点を変えれば、それはそれで楽しいことでもあると思いますし、保護者の方への負担もかけずに通学できるような形になると思われます。市内の学校の配置を見てみると、やはり3校が1校になると範囲が広いため、そういった場合には、スクールバス等のフォローが必要になるのではないかと思います。

中学校については、校舎が新しい学校が多いため、その校舎を活かして無駄にならないような形にしてほしい。人数的には増えてほしいが、学区割りについても長い年月を経て、この形になっていると思いますので、ただ人数合せしただけでは、皆さんが納得いかないと思います。しかし、人数が少なければ、部活動の数も少なくなり、わざわざ違う学区から第二中学校に行くことを希望する生徒もいます。そう考えると、学校の配置を最初に戻してやり直したいような気持ちでいっぱいですが、もう少し違う学区の区分けができていれば、第一中学校と第二中学校がこんなに近接した配置にはなっていなかったと感じます。

私たちは保護者ではありますが、当事者であるその地域の保護者の気持ちを聞かなければ、資料を見ただけの片面的な意見になってしまうのであまり参考

にはならないと思います。例えば校舎等が老朽化で非常に危険という問題が無ければ、しばらくの間はこの状態を維持していただきたいという気持ちです。生徒が少なくても、少ないなりの良い点もありますし、長い目で見てほしいです。

#### ・委員

滝郷小学校の地域に住んでおまして、現在104名ですが、いずれ統廃合されるのではないかと思います。私が小学生の頃に100周年記念を行いまして、やはり歴史があり、思い入れもある学校が無くなることは抵抗があります。萬歳小学校についても80名程度ですが、何名ぐらいになったら統廃合をしなければならない等の決まりはあるのかお聞きしたい。もう一点、人口はみな駅周辺に集中してしまっている現実がありますので、まず自分の住む地域が不便であることです。コンビニが無い。買い物も遠くまで行かなければならない。そういう点からも新しく移り住んでくる人がいないことです。建設業を行っている関係で、家を建てたり、足場を組んでいるところをよく見ますが、やはり駅周辺や学校の近くがほとんどで、自分の住む地域にはなかなか家が建っていかないという現状を目の当たりにしています。いずれ自分の子どもに子どもができた時に、鶴巻小学校に通わなければならなくなったとすると、送り迎え等、大変になるだろうと感じています。

また、少し疑問に思ったことは、第一中学校と第二中学校が近い位置にあるのに生徒数に大きな違いがあることです。その辺をもっとバランス良くできないものかと思いました。

#### ・委員

私は子どもが2人おまして、中央小学校と第二中学校に通っています。両校とも、大規模校と言われている学校の保護者の立場から、小学校については、人数で考える以前に、学校は徒歩で通うことが基本であると思うので、小学1年生が歩いて通える通学距離を考慮した統廃合を考えていった方がよいのではと思います。

中学校については、気になるのは第一中学校と第二中学校の配置が非常に近いことですが、先ほどもご意見がありました。学校に魅力があれば、そちらの学校に行くのではないかと思います。親同士の話で、今、中央小学校からでも私立の学校を受けるお子さんが年々増えていて、実際、圏外へ出られたりもしています。また本来は第一中学校学区であっても、第二中学校のほうが、人数が多く、自分の希望する部活動もあることから、祖母宅に住所を変えて第二中学校に行くという話もよく聞きます。まず統廃合ということを考えるよりも人数のバランスを取っていくことを最初に考えてもいいのではないかと思います。そのためには、第一中学校に限らず、どの中学校も魅力があり特徴があれば、それが口コミなり、きっかけとなって、引越しをする際や家を新たに

建てる際の一つの選択肢となり、現在のバランスが少しでも変わってくるのではないかと思います。

・委員

それでは、中学校の校長という立場からお話をさせていただきます。現任校に勤務して2年目になります。私が着任する以前は、各学年3学級を維持していましたが、着任した年の1年生が2学級に減り、本年度の1年生も2学級で、現在2学級、2学級、3学級となっております。さらに、来年度入学してくる生徒も2学級と伺っており、このように徐々に生徒数が減少し全学年が2学級となってしまいます。先ほどから話題になっている、魅力ある学校づくりという視点では、各学年2学級あれば、学校の努力で十分可能であると考えますが、これが単学級となってしまいますと、これからの時代をたくましく生き抜く生徒を育てるという面において課題が生じるのではないかと考えます。以前、銚子の中学校に勤務していたことがありますが、銚子市が統合に踏み切ったきっかけの一つが単学級であったように記憶していません。現在、銚子市の中学校は7校ですが、二中、三中、六中、七中が近い将来、100人を切り単学級になってしまうようです。7校中半数を超える4校が単学級になってしまうとは、ということもあるのではないのでしょうか。銚子では、33年及び37年の2回に分けて統合を行い、最終的に2校にする計画となっているようです。旭市内には中学校が5校ありますが、個人的には全ての学年が単学級となる中学校が3校になってしまうようでしたら再編を考えていくべきなのかなと思います。人口、生徒数の推移により、ある程度先を見越していくべきだと思います。だいたい統合までには5年程度の期間が必要になると思われれます。地域住民への説明をこと細やかにを行い、校歌や制服を作る等の調整準備に5年程度はかかると思います。これを念頭に置き、5校中3校が単学級化する見込みとなれば、統合に向けて進めていけば良いと考えます。統合まで5年かかると申しましたが、銚子の場合、中学校ごとの地域住民の説明会を行っておりましたが、統合する場所によって、学校によっても、意見が大きく別れたりしています。本当に子どもたちのことを考えて、何が一番良いのか、大切なのかということ、本当に時間をかけて地域の方々に納得、ご理解をしていただかなければいけない。その中には交通手段など、さまざまな子どもの安全安心といったことを考えていかなければなりません、その辺を踏まえて進めていかなければならないと思います。

・委員

先ほど教育長よりお話がありましたが、通学区域は公平性、歴史的経緯、住民感情等、その実態に即して設定されているものです。通学区域は、教育委員会が指定することですので、教育委員会が線引きをしようと思えば事務

的にはできるとは思いますが、なぜ再編が必要なのかという、絶えずその根本に戻ることが大事であると思います。先ほどから話が出ていますが、子どもたちにとって望ましい教育環境を提供するためには、再編が必要であるというコンセンサスが無ければ、単純に人数合わせで再編するのは、いかななものかと思っています。それから行政的には私たちの知り得ないことですが、学校数が少ないほうが市でかける予算が少なくて済むということですよ。我々は学校ですので、どうしたら子どもたちのために一番良いのか、という観点でのみ考えております。統合、合併という言葉ですと、AがBに吸収されるような印象を受けますが、どうせやらなければならないのであれば、先ほど学区割りが赤線で示されていましたが、例えば、中学校が3校で適正規模を作ることができるのであれば、学区を引き直してはどうかと思います。そして3校とも新しく新設するという発想の方が、地域の方々が、皆傷みわけという形になるのではと感じました。小学校については、地域に根ざしており、歴史もありますので、とても難しいことであると思います。いずれにしても旭の場合は早急の問題でもありませんので、時間をかけて望ましい教育環境を提供していくためには、どうしたら良いのかを第一に考えていけば良いのではないかと思います。

#### ・委員

皆さんからお話があったように望ましい学校規模については、地域の方々も納得いただけるものと思いますが、旭市の場合は、学区も通学距離についても、よく配置がなされていると思います。また小規模校も大規模校もデメリットを感じながらも、メリットの方が大きい状況であると感じております。いずれということであれば、やはり納得の得られる形で、無理のある進め方では後々まで引きずることになりますし、納得のいくところになると、小学校で言えば複式学級が出た場合、中学校で言えば単学級がいくつか出る規模になった場合には、仕方が無いものとして地域の方々にも納得いただけるのではないかと思います。小学校では複式学級が出た場合など、一定の考え方をあらかじめ児童数の推移を示しながら、徐々に納得いただける形にもっていければ良いのではないかと感じます。

#### ・伊藤会長

一通り委員の皆様より意見をいただきました。旭市ではもう少し現状を維持できるのではないかという意見を、ほとんどの方がお持ちで、加えて心情的にもできれば、現状を維持してもらいたいというお気持ちであったと思います。小学校、中学校ともに、どういった規模が適正なのかについては、皆さん、ご理解しているが、人数だけでは言い切れない、複雑な事柄がたくさんあるため、一概に進めるという訳にはいかないということでした。しかし皆さんの中に、それぞれの学校が抱えている歴史的な背景や地理的な条件、



学校と地域の関わりなど、いろいろな状況がありますので、それらを考えたうえで、時間をかけ進めていかなければならないという話であったと思います。個々にご意見をいただきましたが、お互いのご意見について質問等がありましたら、お願いしたいと思ひますし、ご意見で付け加えたいことがありましたらお願いしたいと思ひます。いかがでしょうか。

質問がございましたね。どのぐらいの状況になったら再編をしなければならないのかという質問でした。

・委員

はい。全校生徒が何人ぐらいになったら、統廃合をした方が良いという基準はあるのですか。

・庶務課亘主査

特に決まりはございません。

・伊藤会長

特に決まりはないが、どういった状況になったら、子どもたちの教育環境に良くないという観点から、教育委員会はじめ委員の皆様で、検討いただき決めていただきたいということです。

・伊藤会長

他にはいかがでしょうか。中学校では、ほとんどの校舎がどこも新しい、第一中学校と第二中学校が近い位置にあるといった難しい問題もあると思ひます。銚子市においては従来の8校がやがて2校になるということでしたが、皆さんのお話にもありましたが、旭市では早々差し迫っている状況ではないため時間をかけ検討していくということで、こういう場が設けられていますので、今話し合ったから、即実行というわけではなく、近隣の自治体の状況を見ながら、旭市としてはどういった方向に向かっていくのか、上手に考えていければと思ひますが、ご意見いかがでしょうか。

・委員

先ほどお願いしたことですが、統計上の数値に落とし込んで旭市の人口がやがてどうなるのかという話で、5年先程度の数値は頂いているが、10年後、20年後を見越した、もっと言わせてもらえば30年後先の人口推移がどうなっているのかという資料も必要ではないかと思ひます。例えば、一番新しい校舎が飯岡中学校です。30年経てば、大規模改修を行うなり、新しい校舎に建て替えという時期になると思ひますが、そのぐらいの時期に、旭市の人口を当てはめてみた統計的な資料をいただければ、より現実的で先を見通した検討ができるのではないかと思ひます。次の次の世代、いわゆる孫が大人になった時

代で、こういった席に出てくるようになった時に、人口推移がどうなっているのかということも資料として必要なのではないかと思います。それから今日、事務局で作っていただいた資料はすごく生きていて、なおかつここに先ほどパワーポイントで見た児童数・生徒数が入っていると、さらに良かったと思います。後でいただければと思います。どこまでのものを作成できるか、ということもあるとは思いますが、そういった資料はないのかなど。あれば、とても有効な資料になるのではないかと思います。場合によっては、将来、地域性が本当に変わっているということも言えるのではないかと思います。是非、お願いしたいと思います。

・伊藤会長

生徒数の推移は、どのぐらい先まで出せますか。単純に考えれば、その年の出生数により、中学3年生であれば15年後、小学1年生であれば6年後、どの程度のものが出せるでしょうか。まだ生まれていない子どもの数を出す方法はあるのでしょうか。

・学校教育課鈴木主幹（管理主事）

何年先までわかるのかという質問ですが、ある程度はっきりした推計を昨年度出しておりますが、現在0歳児、昨年提供しました資料より1年分先までは出せます。平成35年までのものになりますが、皆さんのお手元にある資料では平成34年までのものになります。それより先の推計となりますと、社会的要因などを勘案して出すこととなりますので、現在ある資料としては、昨年提供させていただいた社人研の将来推計人口、予測の資料にあるもののみです。大まかには30年後、人口が約60パーセント程度となるという指標が出されておりますが、これが唯一の資料となっております。

・伊藤会長

ありがとうございました。

・委員

その推計から作成することはできないのですか。銚子市ではそういった方法で出しているのですよね。それについては、後で確認してみてください。銚子市の資料が、ホームページに載っていました。市内中学生の将来推移、市内生徒数が平成47年（2035年）に629人しかいないという予測が出ています。だから2校にしなければならぬという話に最終的になったのではないかと思います。こういった資料が出せるのであれば、予測ではあっても、とても説得のある数値になると思います。以上です。

・伊藤会長

今日、皆様から多くの意見をいただきましたが、皆さんから頂いたご意見を次の会議までにまとめていただいたうえで、更に検討を重ねて最後にこの学校のあり方検討委員会としての考えをまとめていきたいと思えます。あと2回の会議がございますので、それをまとめていきたいと思えます。いかがでしょうか。結論ではなく、一番最初の会議で、10年先はこのままで大丈夫であろうが、その後のことを早めに考えていかなければならないというお話であったと思うので、それから今、2年目の1回目の会議になりますが、そのことを踏まえ、少しずつ前に進んでいけるように事務局にも頑張ってもらいたいと思えます。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

・庶務課亘主査

次回会議の開催予定についてですが、今回の会議が前回会議とだいぶ間が空いてしまいましたが、次回はあまり間をおかず10月に開催を予定したいと思えますがいかがでしょうか。それでは10月を予定し調整をさせていただきますのでよろしくお願ひします。

・伊藤会長

それでは以上で閉会といたします。長時間お疲れ様でした。